

ニュース

西澤泰彦教授が新センター長に就任しました(就任のご挨拶)

山口 靖・前センター長を引き継ぎ、4月1日から四代目のセンター長を務めることになりました。本センターは、教育面では大学院生を対象とした臨床環境学研修(ORT)、研究・社会貢献面ではコンサルティングファームやECプログラムの推進、さらに交通・都市国際研究部門で行ってきた環境問題解決のための先端技術開発など、その活動は質・量とも益々充実してきています。2018年4月に設立されたフューチャー・アース研究センターの活動にも大きく関与し、持続可能な地球社会の実現を目指す国際的な研究プラットフォームであるフューチャー・アースの理念を具現化するための活動の一翼を担っております。さらに、2021年7月に設立予定の文部科学省、環境省、経済産業省の連携で進められている「カーボン・ニュートラルに貢献する大学等コアリション」に対し、名古屋大学としての対応にも協力しています。

私の専門は、建築史です。特に日本と東アジア地域における建築の近代化と変化について考えてきました。その経験を使って、歴史的建造物の再生活用、歴史遺産を活かしたまちづくり、地域再生の活動をしてきました。例えば、名古屋大学豊田講堂を国の登録有形文化財に登録した際、私は専門家の所見を書きましたが、そこでは学内でこれまであまり評価されてこなかった豊田講堂の良さを記しました。このように持続可能な社会の実現に不可欠な「今あるものを使い続ける」ことを基本とし、建築物、街並、都市、地域のポテンシャルを評価する思想と手法をORTやコンサルティングファームなどに応用しながら、自分の学問を社会に還元していきたいと思っております。研究科内外の皆様方からも、本センターをご支援いただければ幸いです。

(2021年4月 西澤泰彦)



豊田講堂は大学と社会を結ぶ「門」でもあることが評価の一つに示され、2011年に国登録有形文化財となった。

教育活動

令和2年度ORT報告会を実施

2021年3月18日(木)午後、オンラインにて、令和2年度の木曾町ORT(On-site Research Training、博士後期課程臨床環境学研修)の報告会を開催しました。報告会では、2020年6月から長野県の木曾町をフィールドとしてオンラインで調査・研究を重ねてきた博士課程の学生が、小学生のバイオマスエネルギーに対する意識調査の調査結果を発表しました。木曾町の職員のみなさんが、直接、学生に質問したり意見を述べあったりして大変盛り上がりしました。



報告会参加の皆様と

令和2年度統合環境学特別コース修了証授与式を実施

令和2年度統合環境学特別コース修了証授与式が3月25日(木)に開催されました。令和2年度に統合環境学特別コースを修了した環境学研究科のHA Thi Minh Phucさん(地球環境科学専攻)が式に出席し、西澤研究科長より修了証を受け取りました。

当日は、マスク着用など新型コロナウイルス対策を講じ、最小限の人数での修了式となりましたが、教員一同、みなさんのコース修了を喜び、今後の活躍を期待しています。



修了おめでとうございます!!

「統合環境学特別コース」の詳細は、こちらのウェブサイトをご覧ください。

<http://ercscd.env.nagoya-u.ac.jp/jpn/course/>



令和3年度統合環境学特別コース説明会を実施

令和3年度統合環境学特別コースの臨床環境学研修(On-site Research Training)と基礎環境学講究の説明会を4月1日(木)に開催しました。臨床環境学研修は、「具体的な地域の具体的な環境問題」を対象として、現場での診断・治療・影響評価の繋がりを観察して相互のフィードバックのあり方を提案する、実践的な研究活動で、今年度は愛知県東浦町をフィールドとして実施します。また、このコースでは、ORTと並行して基礎環境学講究も開講し、SDGsを大きなテーマとし、ORTを支える共通の基盤となる原理を、領域を越えて体系化していきます。

説明会の様子は、下記のウェブサイトからご覧になれます。

http://ercscd.env.nagoya-u.ac.jp/jpn/course/onsite/2021_1.html



【報告】生態系サービス、テロワール、お酒について語らうタベ-地理的表示の保護制度、保全・継承に向けて

『生態系サービス、テロワール、お酒について語らうタベ-地理的表示の保護制度、保全・継承に向けて』は、共発展センター主催でオンラインにて2021年4月13日(火)に開催されました。業界団体、民間企業、大学研究者を含む100人以上から事前登録を頂きました。会において、基調講演では主に経済学的な観点より金沢学院大学の佐藤淳教授より、日本酒生産が今日の地域経済に果たし得る役割について講演を頂きました。その他の登壇者からはGI製品を含む地域の伝統的な産品、さらに、地域の農業生産や景観保全、土地利用管理や観光振興等について発表がなされました。環境、酒造業、金融の実務者や、イタリア、ドイツからの研究者も登壇し、酒造りを中心に地域景観、環境保全について活発に議論しました。



佐藤淳先生による自著『國酒の地域経済学』の紹介

本ウェビナーは、JST・RISTEX 科学技術イノベーション政策のための科学研究開発プログラム、農林業生産と環境保全を両立する政策の推進に向けた合意形成手法の開発と実践(代表 香坂玲)(JPMJRX20B3)の一環として実施しました。関連プロジェクト「生態系サービスの見える化による住民参加型制度の実現可能性評価と政策形成過程への貢献」の代表である岐阜大学応用生物科学部の乃田啓吾助教も発表を行いました。

【報告】【出版記念セミナー】有機農業政策で変わる食と暮らし-EUと我が国における政策、戦略の動向

【出版記念セミナー】『有機農業政策で変わる食と暮らし-EUと我が国における政策、戦略の動向』は、共発展センター主催でオンラインにて2021年4月23日(金)に開催されました。視聴者、事前登録者は300人以上となり、大きな関心と呼んだ会となりました。農林水産政策科学研究委託事業の成果であるEUにおける有機農業拡大のプロセス、国内の政策推進などの現状について発表があり、質疑応答においては有機農業について視聴者からも幅広い質問を受けました。



質疑に対応する登壇者の皆様

本会は、平成30年度農林水産政策科学研究委託事業の「EUの有機農業振興のための戦略~我が国への示唆~」(代表: 香坂玲 名古屋大学大学院 環境学研究科 教授)及び「欧米の有機農業政策及び国内外の有機食品市場の動向と我が国有機農業及び食品市場の展望」(代表: 大山利男 立教大学経済学部 准教授)の成果発表と、香坂玲・石井圭一(東北大学大学院 農学研究科 准教授)著『有機農業で変わる食と暮らし-ヨーロッパの現場から』(岩波ブックレット)の出版を記念して開催しました。

これらイベントの様子は、香坂研究室のYouTubeチャンネルでご覧頂けます。

<https://www.youtube.com/channel/UCu1-UI4npPrWknxuZrnf8W>



有機農業で変わる食と暮らし

ヨーロッパの現場から

香坂玲, 石井圭一 著 2021年

詳細はこちらのリンクをご覧ください。

<https://www.iwanami.co.jp/book/b570571.html>



編集
後記

名大共発展センター・ニュースレター第26号をお届けします。本号では、統合環境学特別コースの修了式、新年度の説明会、様々なイベントの報告記事を掲載しております。また、前・山口靖センター長に引き継いでセンター長に就任した西澤泰彦教授の挨拶を載せております。ニューノーマルがノーマルになりつつある中で、共発展センターの活動も徐々に通常の形を取り戻してきています。今年度、共発展センターではこれまでの活動の成果報告を目的としたプロジェクトを立ち上げる予定です。今後の報告にご期待ください。

これからも共発展センターの活動を引き続きご支援頂きますようお願いいたします。

名古屋大学



大学院環境学研究科附属
持続的共発展教育研究センター

共発展センター・ニュースレター 編集部

名古屋大学大学院環境学研究科附属持続的共発展教育研究センター 事務局

〒464-8601 名古屋市千種区不老町 名古屋大学環境総合館421号室

電話/FAX: 052-747-6547

E-mail: cesfirm@ercscd.env.nagoya-u.ac.jp